

インフルエンザ治療 A型、B型に強力な阻害作用があるとして使

用されてきたものが明らかではないとす

な。その副作用には「重大なものとしてシヨックやアナフィラキシー様症状として、低血圧や呼吸困難や呼吸器系や循環器系など多く

状として認識されていますが、日本では、インフルエンザは高熱が

長引く病状であると認識されているため、早期にタミフルを処方す

ることが常識となったよつです。同じ病名でも国が変わるとその対応も全く違つのです。

タミフルは、抗インフルエンザウイルス薬と分類され、インフルエンザウイルスのノイ

ラミニターゼ (NA) というウイルスの酵素腫瘍薬として認識され

ています。抗がん剤の場合、抗悪性腫瘍薬として認識されています。タミフルの場合に



自然医学総合研究所所長

大沼 善誉

自然治癒を科学する

は、ウイルスだけ、抗がん剤では腫瘍だけではなく、健全な細胞にも障害を与える作用があると私は考えます。

なぜ、タミフルが健全な細胞に障害を与えるのかを考えてみますと、ウイルス

に似た遺伝子構造を持つ腸内有用細菌もその



07年1月30日の血液画像。白血球はほとんど動かず、不活性の状態だった



07年3月9日(38日後)の血液画像。白血球はすっかり元気な活性型になっていた

がんの盲点⑮

○六年三月に微熱が、その後急性リンパ性白血病と診断され

た女性(五十三歳)は、抗がん剤治療ののち、骨髄移植以外に方法は

ないと言断されました。女性には自然療法を選

択して○七年一月に来院しました。当院にて、光回復療法、温熱療法、酵素活性

被害を受けるからと考えられます。また、抗がん剤の場合では、ガ

ン細胞といえ、元は健全な患者の細胞であ

り、当然共通した遺伝子構造を共有している

からです。日本でもヨーロッパ同様、原因か

ら対応できるよつになら対応できるよつにな

ることを期待したいものです。ど患者個人の体質に合

浸透率が回復するほ

られていきます。さらに、造血反応まで回復す

ることがサイトカインという遺伝子の伝達物質

の研究からも明らかになっています。この元

気な血液が生命力のある新しい細胞をつく

り、女性を健康体に回復させたと思います。

講演会のお知らせ

テーマ：(1)「癌を克服するためにⅢ」

講師：酒匂猛 岐阜県中津川市立病院外科部長 医学博士

テーマ：(2)「病気を治した人の生き方」

講師：大沼善誉 自然医学総合研究所所長 ナチュラルケアセンター院長 平成11年度社会文化功労賞受賞 生化学博士・名誉医学博士

開催日：4月15日(日)名古屋市東区ウィルあいち

会費：会員無料、非会員1000円

時間：午前10時開演

主催：民間非営利団体 国際自然免疫学会

共催：自然医学総合研究所

申し込み：自然医学総合研究所 TEL 052・801・7063

「免疫応答反応」も正常に行われることが知

か、ウイルスやがん細胞など不要な細胞を攻撃するために必要な

自然免疫療法を探し、お困りの方は一度、ナチュ

お問い合わせ 電話 052・801・7063 Eメール yoshinori@nrt.ne.jp URL http://www.nrt.ne.jp